http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.101　12/11/02

古典の日　天声人語より

10月31日（水）の学級日誌に●●君が、

今日はハロウィンということで、図書館でも委員の人々が魔女的ハットをかぶりながら、陽気に貸し出しをしていました。特典としてお菓子も渡されていましたが、それ目当てと思われてもアレなので、借りるのを止めておきました。無念。

と記載している。「無念と思うくらいなら、お菓子もらえよ！」と突っこみたくなる（笑）が、図書館までハロウィンは侵出しているわけだ。私は、お菓子をくれる生徒からは遠慮無くもらうことにしているが（笑）、実はこのケルト人起源の行事が大嫌いである。いつからこんなに流行しているのやらん…。

＊

今朝、●●くんが教えてくれた「古典の日」、早速授業のあった13Rと14Rで、元から知っていたかのごとくにひけらかしておいた。はは…。で、その出典の天声人語。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

千年近くも昔、たいそう読書好きの少女がいた。世は平安時代、書物は希少だ。少女は等身大の仏像を造り「あるだけの物語を全部読みたい」とひたすら願う。菅原孝標女（すがわらのたかすえのむすめ）と呼ばれる人で、その「更級（さらしな）日記」に愛書ぶりが詳しい▼上洛（じょうらく）し、憧れの源氏物語を全巻もらうと天にも昇る心地になる。「間仕切りの中に伏して一冊ずつ読む喜びといったら、后（きさき）の位も比ではない」と書き、「昼はずっと、夜は目の覚めている限り、灯を近くにともして」読みふけった。そんな少女が、喜んでいよう▼今年から、11月１日が「古典の日」になった。１００８（寛弘５）年のこの日、源氏物語をめぐる記述が「紫式部日記」に初めて出てくる。それにちなんで法律で定めた。読書週間のほぼ真ん中、翌々日は文化の日と、日取りはいい▼文学の古典ばかりではない。音楽、美術、伝統芸能などを広くとらえて、歳月に朽ちない輝きに親しむ趣旨だという。汲（く）めども尽きない泉なのに、飲まず嫌いはもったいない▼とはいっても、とっつきにくいのが古典というもの。「桐壺（きりつぼ）源氏」という言葉があって、源氏物語を読み始めたが冒頭の「桐壺」の巻で投げ出すことを冷やかして言う。せっかくの日を尻すぼみにさせないために、親しみ、楽しむ工夫が大事になる▼源氏よりは通読者が多いだろう「徒然草」が言っている。〈ひとり、燈（ともしび）のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわざなる〉。古典の醍醐味（だいごみ）を、古典が教えてくれる。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

中に「桐壺源氏」という語が登場するが、私が知っている言葉は「須磨源氏」である。昔は須磨巻（第12巻）までは頑張ったのだが、最近は第１巻で諦めるのだろうか。古典教育に奮闘せねばならぬ…などと思ったが、それがいけないのかも。『更級日記』も『源氏物語』も２年生で勉強する。どちらも素敵な作品である。お楽しみに。